

「つべつ学」高く評価

北海道地学協働アワード準グランプリ

津別高校
(太田徹校
長が、北海
道地学協働
アワード2
023(北
海道教育庁
生涯学習推
進局主催)
で準グラン
プリに選ば
れた。地域

と連携して津別の自然
や産業、歴史などを学
ぶ総合的な探究の時間
「つべつ学」の取り組
みが評価された。合わ
せて、つべつ学に携わ
る上田弘恵教諭(47)

が北海道教育実践表彰
(教職員表彰)、平子裕
教諭(29)がオホーツク
管内教育実践表彰(初
任段階表彰)を受けた。

地学協働アワードは、
地域の行政や住民、企
業などと学校が連携・
協働し、地域課題の解
決のために生徒が多样
な学習活動に取り組ん
でいる学校に贈られる。
今回は高校、高等支援
学校15校がエントリー
した。

「つべつ学」は20
18(平成30)年度に
始まり、本年度が6年
目。1年次に津別の自
然や産業を学習する。
2年次には相生地区の
歴史と町の行政、町議
会について学び、北海
道大学公共政策大学院

の学生団体と連携して
まちづくりに関する提
言を行っている。提言
を機にチミケップ湖畔
の看板が新調されるな



上田、平子両教諭も教育実践表彰を受ける

ど具体的な成果
につながるケー
スもある。3年
次には、インタ
ーンシップに加
え、ポスターや
映像作品などの
成果物を制作し
ている。

授業は地域の
企業やNPO、
第三セクター、
農業者をはじめ、
学校や大学など
の教育機関、町
や消防署などの

行政機関と連携
して実施。地元への就
職率向上や主体性の高
まりにつながり、地学
協働の理想的な取り組
みを実践していると
して、準グランプリに選
ばれた。

上田教諭は16年度
から2年間の準備期間
を含め現在まで約8年
間、教員の中心になっ
てつべつ学の年間計画
や、関係機関との連絡

調整などに携わってき
た。平子教諭は主に北
海道大学との連携に携
わり、カリキュラムの
充実を図ってきた。

11日に高校で表彰伝
達式が行われた。太田
校長は「生徒が立派な
社会人になれるよう、
実践を積み重ねたい」
とあいさつ。上田教諭
は「地域や教職員の皆
さんのお陰、平子教諭
は「サポートがあつて
こそその受賞」と感謝を
述べ「現状に満足する
ことなく今後も取り組
みたい」と声をそろえ
た。(浩)

◆私は言いたい係か
ら 本紙「私は言いた
い」コーナーへの投書
は、ハガキ類(封書可)
またはFAXでお願い
します。なお、必ず住
所、氏名、電話番号を
明記してください(投
書者の希望による紙上
での匿名は可能です)。